

子どもたちに栄養と希望を。 RED CUP CAMPAIGN

今、世界では飢餓で多くの幼い命が失われていること、
食べるために働いて学校に行けない子どもたちがまだいること、
この状況を多くの人に伝え、一人でも多くの子どもたちに
学校給食を届けるためのキャンペーンです。

目印は、国連WFPが給食を入れる容器として使っている、赤いカップ。
赤いカップは、子どもたちの未来への希望のシンボル。
このカップを目印にして、皆さまに学校給食支援へ
ご協力いただく機会をご用意しています。
皆さまの力で、給食が届く、世界がより良くなっていく、
それがレッドカップキャンペーンの願いです。

詳しくは、レッドカップキャンペーンページで
www.jawfp.org/redcup



地球の飢餓を救え。

WFP

国連世界食糧計画

●お問い合わせ：国連WFP

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜6F

WFP

検索

Eメール / info@jawfp.org

ショクリョク ハイキョウ

0120-496-819

(通話料無料) ※携帯電話・PHSからつながります。
受付時間 / 9:00-18:00 (年中無休)

2015年10月発行

World Food Programme
国連WFP

WFP School Feeding Programme

「国連WFPの学校給食プログラム」

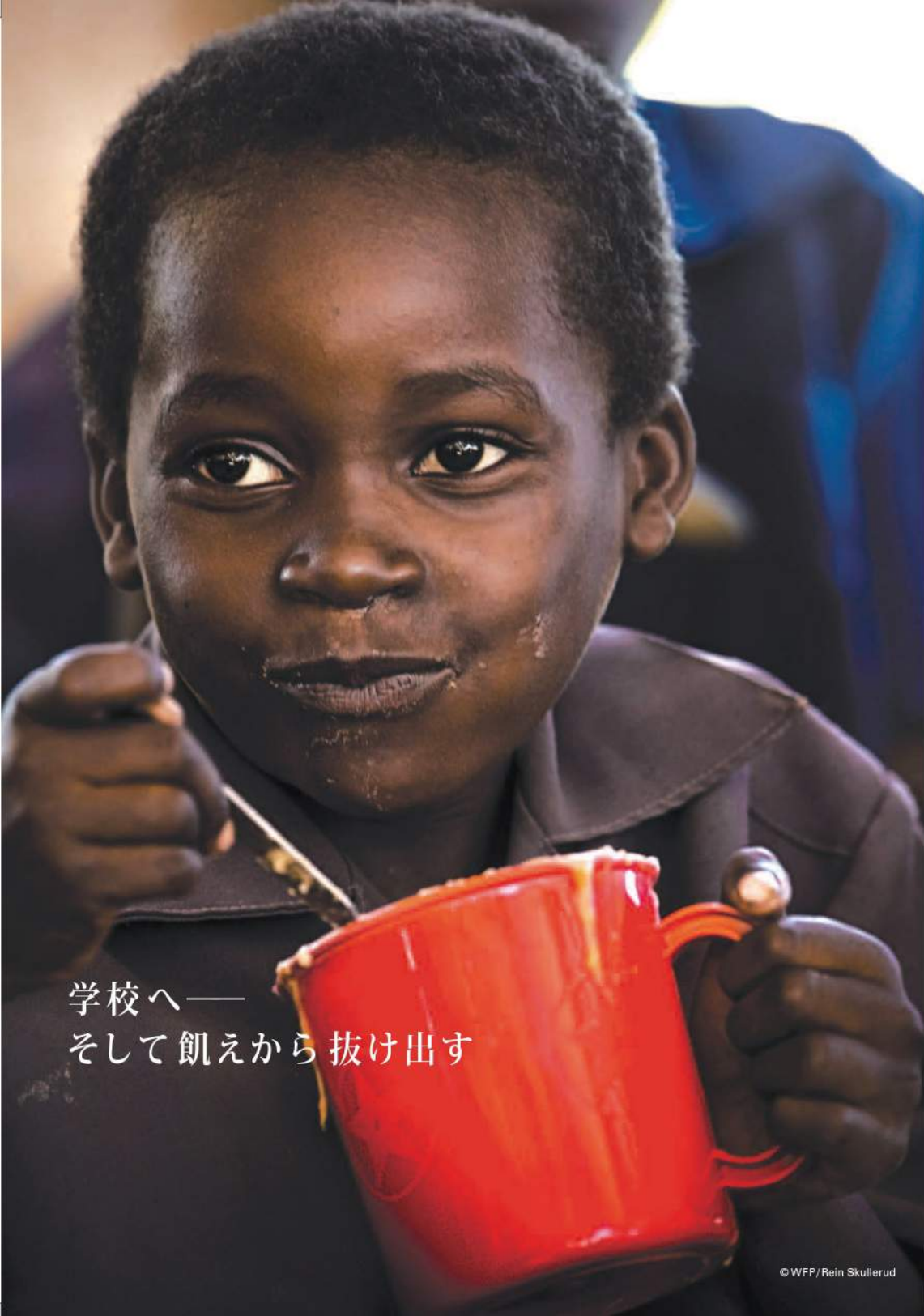


子どもたちに栄養と希望を。



World Food
Programme

wfp.org/jp



学校へ——
そして飢えから抜け出す

© WFP/Rein Skullerud

「国連WFPの学校給食プログラム」

国連WFPは、飢餓のない世界を目指して活動する国連の食糧支援機関です。

その活動の柱の一つとなっているのが「学校給食プログラム」です。

これは、途上国の学校で栄養価の高い給食を提供するというもので、子どもたちの健全な発育を助けると同時に、就学率・出席率の向上に寄与しています。

学校で無料の給食が出ると、親が子どもたちを積極的に学校に通わせるようになります。

子どもたちも空腹が満たされ、集中して勉強することができます。

子どもたちは教育を受けることで将来への夢や希望を持てるようになり、

教育の普及は社会や国の発展にもつながります。

給食は、特に貧しい家庭の子どもや、戦争や病気などで親を亡くした子どもなどの生活を守る、生活保障の役割も果たしています。

さらに、国連WFPは可能な限り、給食で使う食材を地元で調達する「地産地消」を推進しています。

これは、地域の経済発展や農家の支援にもつながります。

日本の給食は世界の中でも長い歴史を誇り、明治22年に山形県で貧困児童の救済を目的に、おにぎり、焼き魚と漬物が提供されたのが始まりとされています。

その後、戦時中は一時中断しましたが、第二次大戦後の困難な食糧事情の中、脱脂粉乳など海外からの援助物資を受けて、日本の学校給食の制度は急速に普及。子どもたちを飢えから救い、健全な発育を後押しし、戦後の復興の一助となりました。

国連WFPは過去50年以上にわたり、世界中の途上国で学校給食を配給してきました。2014年には、65の途上国において、およそ1,820万人の子どもたちに給食を提供しました。

戦後、日本の子どもたちが給食に力をもらったように、

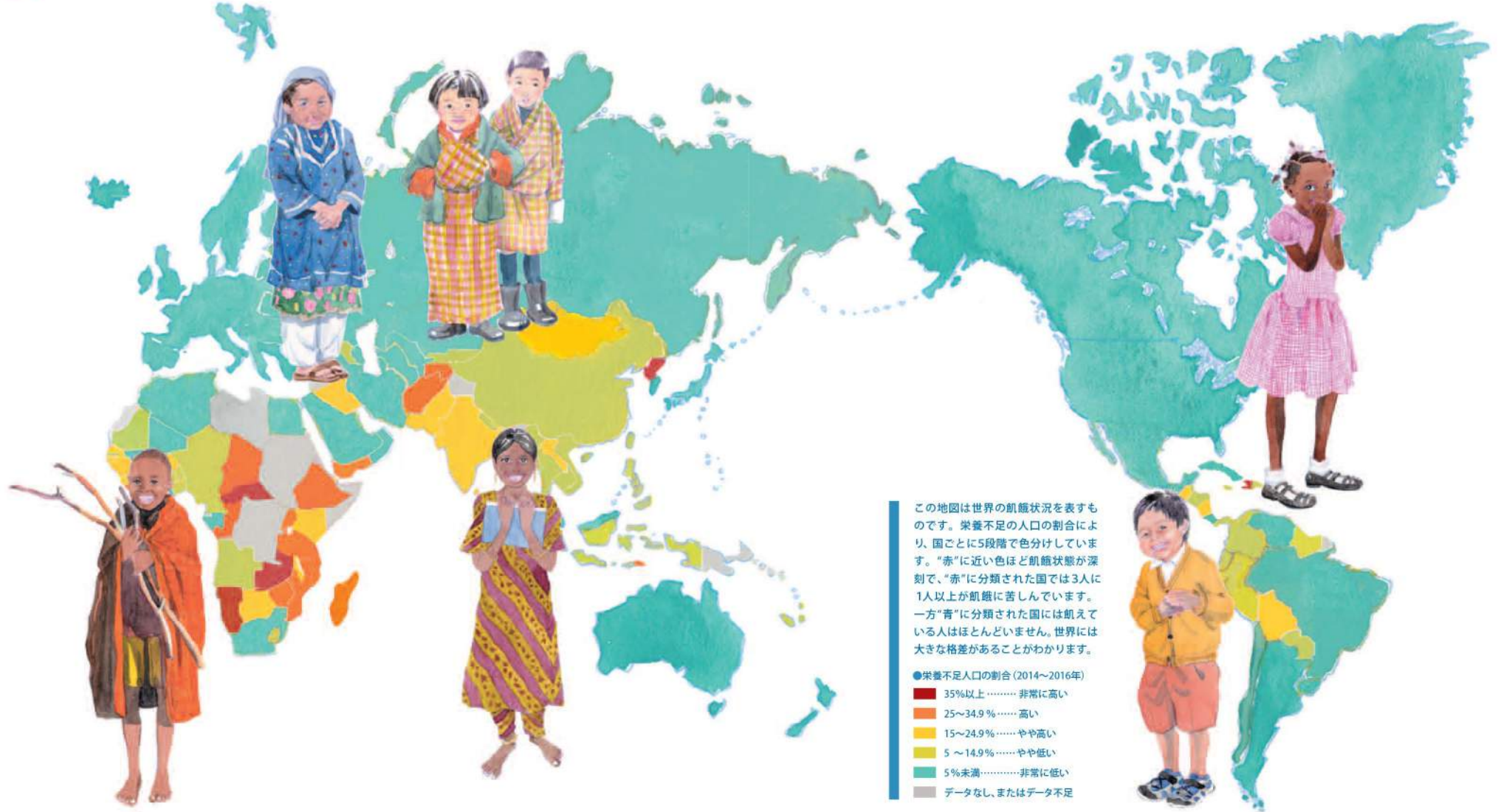
いま、国連WFPの給食は世界中の途上国で子どもたちの未来を支えています。

どうぞ皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。



いま、世界では……

この瞬間にも、飢えて命を落とす子どもたちが大勢います



世界にはすべての人に十分な食糧があります。それにもかかわらず、現在、世界ではおよそ8億人の人々が飢えに苦しんでいます。これは世界の全人口の9人に1人です。また、世界では4人に1人の子どもが慢性的栄養不良に陥っており、6,600万人の小学生が空腹の状態で学校に通っています。十分に食べ物と栄養を摂っていない子どもたちは注意散漫になりやすく、勉強に集中することができません。

栄養が足りないと成績が下がり、大人になってからの収入が低下しがちなことが研究でわかっています。さらに5,800万人は、家庭の労働の担い手になるなどして、学校に通うことすらできません。

未来を担うべき人材を育成できないこと、それはその国の将来にさらに大きな負担を課すことでもあります。



学校給食プログラムの形式 ……

子どもたちの生活に添った支援

学校で出す給食

国連WFPの給食は、多くの場合、朝食あるいは昼食です。両方が提供されることもあります。調理場がある学校では温かい食事、ない学校では軽食が提供されます。日本のように何種類もの料理が出ることはありませんが、必要な栄養が摂れるように計算されています。

【メニュー例】

- トウモロコシと大豆の粉を溶かして煮たおかゆ
- 雑穀に煮豆のスープをかけたもの
- 魚缶のカレー
- 栄養強化ビスケット

※一部の先進的な事例では、学校で焼いたパンや野菜炒め、乳製品なども提供されます。



©JAWFP

持ち帰り食糧



©WFP/Habib Rahman

「持ち帰り食糧」という支援形式もあります。これは、子どもが一定の日数以上出席すれば、家族全員分の食糧（米や食用油など）が提供され、家に持ち帰れるというものです。子どもたちが学校へ通うようになったことで生じる家計の損失を補う意味合いがあります。

現金や食糧引換券による給食支援

従来は、国連WFPが学校に穀物や豆などの食材を届け、それを調理する形が基本でした。

最近では、食糧と交換できる券や現金を学校に渡し、学校がそれを使って地元の市場で自ら給食の食材を調達するという取り組みも行われています。

従来の方式では腐敗の心配から扱えなかった生鮮食料品を取り入れられ、食材の選択肢が増えるなどの利点があります。

学校給食プログラムの効果 ……

4つの効果

1. 生活保障

災害や経済危機などの緊急事態が起きた際、貧しい家庭や親を亡くした子どもなどは生活がさらに苦しくなり、食べていくことが難しくなります。そんな時、給食は家計を助け、暮らしを守る手段となります。

2. 教育普及

貧しい家庭では、生計を支えるために、子どもが働かなければならないことがあります。しかし、給食が提供されれば、親は働かせるよりも通学させることを選ぶようになります。子どもたちは勉強に集中できるようになり、学習能力も向上します。

戦争などの緊急時には、避難生活などで通学が難しくなるため教育が中断しがちですが、給食は通学の強い動機づけとなり、子どもたちを学校につなぎ止める効果があります。

さらに、女の子に教育を受けさせず、若くして結婚させる慣習が強い地域でも、給食は学校への呼び水となり、男女間の教育格差が是正されます。

【就学率・出席率向上の事例】

給食が提供された学校では、1年間に、就学率がガーナで41%上昇し、出席率はウガンダで6.3%、エチオピアでは3.5%上昇しました（2012年調査）。

3. 栄養状態の改善

途上国では、国連WFPの提供する給食が唯一、定期的に食べられ栄養を摂れる食事となる子どもたちが多くいます。栄養不良の子どもたちは、身体的にも知的にも発達が遅れがちで、給食がなければ一生取り返しのつかないダメージを受けることになりかねません。

必要な栄養を摂ることができるよう、給食にはビタミン・ミネラル等の栄養素を加えたり、給食と同時に虫下し薬を投与したりしています。

4. 地域農業の振興

国連WFPは、可能な限り、給食の食材を地元で調達する「地産地消」を推進しています。これは貧しい小規模農家や食品関連業者に対する支援ともなり、地域の農業や経済の振興につながります。



「学校給食プログラム」との出会い ① ……

夢に向かって一步一步大切に一生懸命頑張れば、 不可能なことはありません——ニムドマ・シェルパさん(ネパール)



17歳でエベレスト登頂に成功したニムドマさん。
©DaGombu Sherpa

2008年に17歳という若さでエベレスト登頂に成功し、2014年12月には世界7大陸最高峰を踏破したネパール人の女性登山家、ニムドマ・シェルパさん。子どもの頃は、国連WFPの給食を食べて育ちました。

ニムドマさんは幼い頃、お姉さんについて小学校へ行き始めました。初めは給食が食べられることや友達と遊ぶことが目的で通っていましたが、次第に学ぶことへの意欲も湧き、何か大きなことを成し遂げたいと思うようになったそうです。

「教育は存在すら知らなかった様々な世界への扉を開いてくれます。」とニムドマさんは言います。



国連WFPが支援するネパール西部の小学校を訪れたニムドマさん(前列右)
©Mayumi. R



ネパールの子どもたちと一緒に。
©Mayumi. R

ネパールの中でも特に農業条件に恵まれない山岳地帯の状況はとても厳しく、しばしば食糧難に見舞われています。貧しい地域では子どもは重要な働き手で、家畜の世話をしたり、幼い弟や妹の面倒をみたりするのは当たり前のことです。女の子は将来嫁いで家を出ていくと考えられており、学校に通わせてもらえないこともしばしばあります。国連WFPは、こうした貧困に苦しむ山岳地域で学校給食プログラムなどの支援を行っています。

ニムドマさんはこのような厳しい状況を乗り越え、「7サミッツウィメンチーム」という登山隊に参加し、世界7大陸最高峰に挑んできました。女性だけの登山隊で世界7大陸最高峰を目指すのは世界初です。そして、2014年12月、ついに7大陸最高峰を全て踏破しました。

現在、ニムドマさんは登山家として活躍する一方、これまでに数百の小学校などを訪問し、子どもたちに自らの体験談や教育の大切さを伝えています。

「夢に向かって一步一步大切に一生懸命頑張れば、不可能なことはありません。」

ネパールに帰国したニムドマさんは、大学で観光学を学び、女性が弱い存在だと思われているネパールにおいて女性たちに登山の魅力を発信し、トレーニングなどを提供、女性登山家を増やすことを新たな目標としていくそうです。また、2015年4月にネパールで発生した大震災の被災者への支援活動にも取り組んでいます。



「学校給食プログラム」との出会い ② ……

給食のおかげで授業に集中することができます

——モハメド・ジャリルくん(イラク)



モハメド・ジャリルくん
© WFP/Mohammed Al Bahbahan

イラクで最も貧しい地域のひとつであるズィーカールにおいて、国連WFPは73校で21,000人の子どもたちに学校給食を提供してきました。この地域では、子どもの栄養状態の改善と教育機会の向上を優先課題として取り組んでおり、給食は親が子どもを学校に行かせ、教育を受けさせるきっかけになっています。モハメド・ジャリルくんもその一人です。

イラク南部には湿原が広がっていましたが、1980年代に破壊され、経済的にも打撃を受けました。現在は、イラク国内でも最も貧困率の高い地域の一つです。モハメドくんはこの地域に暮らしています。ワラでできた家が並ぶ湿原の中を通過して、学校に通います。週末には生計を助けるため、お父さんと一緒に市場へ魚を売りに行きます。

11歳になるモハメドくんの夢は薬剤師になること。「みんなが元気になるのを助けることができるから。」と語ります。モハメドくんやクラスメートたちは、一歩ずつ夢の実現に近づいています。5年生になった今、「毎日学校で大好きな理科の勉強をしたり、友達とサッカーをして遊んだり、おいしい給食を毎朝食べることができるんだ。給食を食べると力がわいてくるんだよ。」と話します。

国連WFPが提供する給食の内容は、パン、チーズ、果物に牛乳やジュースなど、子どもたちの健康に必要なものばかりです。

「給食のおかげで、集中して先生の話聞くことができるんだ。体にもとてもいいしね!」とモハメドくんは言います。

「学校給食プログラム」と農業支援 ……

一石二鳥! 地産地消の学校給食プログラム

最近、国連WFPが提供する学校給食の食材として、地元産の農産物を使う「地産地消」の取り組みが増えています。これには一石二鳥の効果があり、地元で採れた農産物が子どもたちに教育の機会を与え、また地元の農業振興にもつながっています。

エチオピアのハンジャ・チャファ小学校では、2年ほど前から、学校から半径2~3キロの地元で農家が育てた作物が給食に使われるようになりました。地元産のインゲン豆とトモロ

コシの粉、植物油、塩からつくられたおかゆが子どもたちのおなかを満たします。

生徒のマルコス君は、「家では薄いパンだけしか食べものがなくておなかがいってしまうんだ。学校で給食が食べられてとても幸せだよ!」と語ります。

校長は、「生徒の大半は豆を食べたことがなかったので、最初はその味に慣れなかったようですが、今では喜んで食べています。また、給食を通じて、栄養についても学んでいます。」と話しました。

国連WFPは、地元の農業組合から給食用の食材を購入する契約を結んでいます。この農業組合は、2ヘクタール未満の農地しか持たない小規模農家で構成されており、それまでは不利な条件で仲買業者に農作物を売らざるを得ませんでした。国連WFPが適正な値段で継続的に作物を買うことで、地元の農家(特に女性)に収入をもたらし、農業振興を後押ししています。

また、国連WFPの姉妹機関である国連食糧農業機関(FAO)がこれらの農家に農業研修を提供し、能力向上を図っています。

このような地産地消の給食の取り組みは、ホンジュラスやマラウイ、モザンビークなどでも行われ、拡大しています。



国連WFPが支援する農家
© WFP/Ida Girma



国連 WFPの最終目標 ……

国連 WFP支援からの「卒業」

学校給食プログラムの実施国 (2014年)



2014年、国連WFPは65カ国で1,820万人の子どもたちに給食を提供しました*。しかし、これはゴールではありません。学校給食プログラムの最終目標は、給食を提供している途上国の政府が国連WFPの給食支援から「卒業」し、自国の制度として独立した給食事業を継続的に運営することです。そのため、給食に関連した枠組みの設計や財源の確保をサポートしたり、給食事業の技術面でのノウハウを伝えたりしています。

これまでに、ボルトガルやシンガポール、ブラジルなど、30カ国以上が支援を「卒業」し、現在は自国の給食制度を運営しています。

*ホンジュラス政府との共同基金プロジェクトによる120万人を含みます。



©WFP/Rein Skullerud



©WFP/David Orr

確かに届ける国連 WFP ……

支援を必要としている人々に確実に届けます

皆さまから寄せられたご寄付は、食糧購入および物資の輸送費などにあてられ、支援を必要としている人々のもとへ食糧*を確実に届けています。

また、きちんと保管・管理・支給されているかどうかをチェックする「モニタリング」も随時行っています。

*食糧そのものではなく、食糧引換券や食糧購入用の現金を配布することもあります。この場合も、食糧の消費状況などを調べ、モニタリングします。





国連WFPの活動 ……

飢餓のない世界を目指して

国連WFPとは

WFP 国連世界食糧計画は、飢餓のない世界を目指して食糧支援を行う国連機関です。イタリア・ローマに本部があり、飢餓と貧困の撲滅を使命として、毎年平均80カ国で9,000万人に食糧を届けています。

支援の対象は、災害や紛争の被災者、妊婦や授乳中の母親、栄養不良の子ども、

病人など、最も貧しい暮らしを余儀なくされている人々です。1万人超の職員のうち9割以上は、食糧支援が行われる途上国の現場で勤務しています。

食糧支援活動には、「緊急食糧支援」「栄養支援」「学校給食プログラム」「農家の自立支援」など、様々なタイプがあります。人々の命と健康を守り、地域社会の自立と発展を支え、最終的には支援を受けている国が支援から「卒業」できるよう支えるのが目標です。

日本では1996年、WFP 国連世界食糧計画日本事務所が開設されました。日本政府との連絡業務、企業や各種団体・他の支援組織との協力関係の推進、および広報活動を行っています。

国連WFP協会は、WFP 国連世界食糧計画を支援する認定NPO法人であり、日本における民間協力の支援窓口です。募金活動や企業・団体との協力関係の推進、広報活動を通して日本における支援の輪を広げています。1999年に設立され、2005年に認定NPO法人として認められており、ご寄付は寄付金控除の対象となります。

国連WFPとは、国連機関であるWFP 国連世界食糧計画と、それを支援する認定NPO法人である国連WFP協会の二団体の総称です。



©WFP/Teresa Ha

ご寄付方法

国連WFPへのご寄付は、以下の方法があります。

● 毎月の〈ご寄付〉は ……

〈WFPマンスリー募金〉

- 毎月1,000円からの定額引き落としによる継続的なご寄付の方法です。
- ※詳しくは国連WFPのウェブサイトをご覧くださいか、お電話でお問い合わせください。



● 今回の〈ご寄付〉は ……

〈クレジットカードで〉

- お電話 **0120-496-819** (通話料無料)
受付時間/9:00-18:00 (年中無休)
※携帯電話・PHSからもつながります。

● ウェブサイト

www.wfp.org/jp



〈銀行から〉

● 三菱東京UFJ銀行

店名 : 本店 (店番001)
口座種類・番号 : 普通 0887110
口座名 : トクヒ) コクレンWFPキョウカイ

- ※領収書の発行および寄付金使途指定につきましては、フリーダイヤルまでご連絡ください。
- ※三菱東京UFJ銀行本支店からのお振込は、振込手数料が無料になります。

● ゆうちょ銀行

口座番号 : 00290-8-37418
加入者名 : 国連WFP協会

民間からのご寄付の75%以上は、国連WFP協会を通じて、WFPローマ本部に送金され、途上国での支援活動に活用されます。25%(上限)は、日本国内での募金活動や運営経費に使わせていただきます。

ご寄付は、寄付金控除など税制上の優遇措置が受けられます。

国連WFP協会が発行する領収書を添付して確定申告を行っていただくことにより、寄付金控除を受けることができます。詳しくはお近くの税務署にご相談ください。

● 世界の飢餓や国連WFPの活動をもっと知るには ……

● メールマガジン

www.wfp.org/jp

● Facebook

www.facebook.com/WFP.JP

● Twitter

www.twitter.com/WFP_JP

● お問い合わせ・資料請求は ……

国連WFP **0120-496-819** (通話料無料) ※携帯電話・PHSからもつながります。
受付時間/9:00-18:00 (年中無休)
Eメール/ info@jawfp.org